



1. 事業の目的・趣旨

洲本市には、子育て世代が日常的に集い、相談や交流ができる「子どもプラザ」機能をもつ拠点が十分に整備されていません。核家族化や移住世帯の増加により、子育ての孤立が課題となる一方で、目的を明確にした支援機関には「行きづらさ」を感じる声もあります。本事業では、親子が自然に集い、楽しみながらつながり、必要なときには相談できる“開かれた子どもプラザ”の実現を目指し、イベント・体験活動・学びの場・日常的な居場所づくりを総合的に展開しました。

2. 事業実施内容

(1) 地域イベントの開催

子どもプラザみらいえ「みらフェス」夏まつり・秋まつり

親子で楽しめる縁日、ワークショップ、子どもマルシェ、子育て相談、音楽・パフォーマンス等を実施。

- 夏まつり(7/26): 来場者 約 100 名
- 秋まつり(11/8): 来場者 約 120 名(子どもの人権展・音楽祭を同時開催)

(2) 体験ワークショップ

「アーティスト×みらいっ子(ららプロ for Babies)」(9/4)

未就学児と保護者を対象に、音楽を通じて親子の感性とふれあいを育むプログラムを実施(参加 8 名)。

(3) 保護者向けセミナー

子育てママ応援セミナー(7/12)

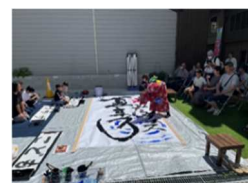
「心の回復力(レジリエンス)」をテーマに、子育て中の不安やストレスと向き合うための学びの場を提供(参加 19 名)。

(4) ママカフェの開設

ママカフェ YORISOI 米田家(9月～)

助産師・保健師が関わる、妊娠期から就学前までの母親が安心して立ち寄れる居場所を定期開設。

利用者数: 9～12月 39 名



3. 事業の成果

- イベントと日常的な居場所を組み合わせることで、親子が自然につながり、相談できる「子どもプラザ」機能を地域に実装できた。
- 子育て世代同士の交流が生まれ、孤立感の軽減や情報共有につながった。
- 子どもの人権や保護者の心のケアなど、子育てを地域全体で支える意識の醸成に寄与した。
- 継続的に利用できるママカフェの開設により、日常的な相談・見守り体制の基盤を整えた。

4. 今後の展望

本事業を通して、親子が「支援を受けに行く」のではなく、日常の中で自然につながり合う関係性が生まれつつあります。「助けて」と言いにくい社会的な空気の中でも、偶然の出会いや参加体験が、必要な支えにつながる“必然”となることを私たちは大切にしてきました。今後は、イベントと日常的な居場所をさらに連動させ、子育て世代だけでなく地域住民や若者、多様な主体が関わる共助の輪を広げていきます。子どもプラザ機能が特別なものではなく、地域の日常の風景として根づく共助共生社会の実現を目指します。